

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年8月14日

【四半期会計期間】 第213期第1四半期(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

【会社名】 三菱倉庫株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Logistics Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 松井明生

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋一丁目19番1号

【電話番号】 東京03(3278)6611

【事務連絡者氏名】 経理部経理課長 三浦弘樹

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋一丁目19番1号

【電話番号】 東京03(3278)6611

【事務連絡者氏名】 経理部経理課長 三浦弘樹

【縦覧に供する場所】 三菱倉庫株式会社 横浜支店
(横浜市中区太田町四丁目55番地 横浜馬車道ビル)
三菱倉庫株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅三丁目16番22号
名古屋ダイヤビルディング1号館)
三菱倉庫株式会社 大阪支店
(大阪市福島区野田六丁目5番20号
大阪ダイヤビルディング)
三菱倉庫株式会社 神戸支店
(神戸市中央区東川崎町一丁目7番4号
ハーバーランドダイヤニッセイビル)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第212期 第1四半期 連結累計期間	第213期 第1四半期 連結累計期間	第212期
会計期間	自 平成26年 4月1日 至 平成26年 6月30日	自 平成27年 4月1日 至 平成27年 6月30日	自 平成26年 4月1日 至 平成27年 3月31日
営業収益 (百万円)	49,162	51,251	204,362
経常利益 (百万円)	4,234	3,658	14,456
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,795	2,638	9,133
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	6,375	6,157	28,422
純資産額 (百万円)	242,130	268,258	263,089
総資産額 (百万円)	402,411	433,546	433,041
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	15.95	15.06	52.12
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	59.6	61.3	60.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,252	1,904	20,691
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,034	2,383	20,562
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,847	4,134	1,638
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	37,234	38,900	43,276

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 営業収益には消費税等は含まない。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

4 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としている。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費に持ち直しの兆しがみられ、設備投資にも持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。

こうした経済情勢にあって、当社グループを取り巻く事業環境は、倉庫及び港湾運送等物流業界においては、貨物量の伸び悩みや競争の激化等により、また不動産業界においては、賃貸オフィスビルの需給改善の兆しがあるものの本格的な賃料水準の回復には至らず、引き続き厳しい状況のうちに推移しました。

このような状況の下、当社グループは、積極的な営業活動を推進し、物流事業では、医薬品等の配送センター業務の拡大、海外拠点の拡充等に努め、不動産事業では、テナントの確保及び賃料水準の維持・向上、前上半期末に稼働した日本橋ダイヤビルの円滑な運営に努めました。他方、コスト管理の徹底と業務の効率化を一層推し進め、業績の確保に努めました。

この結果、営業収益は、物流事業で、港湾運送事業において貨物取扱量が減少したものの、倉庫、陸上運送事業において貨物取扱量が増加したほか、国際運送取扱事業において為替円安の影響もあり収入が増加し、不動産事業で、前上半期末に稼働した日本橋ダイヤビルの寄与や設計施工事業の受注増加等により収入が増加したため、全体として前年同期比20億8千8百万円（4.2%）増の512億5千1百万円となりました。また営業原価は、物流事業で、貨物取扱量の増加に伴い作業運送委託費等が増加したほか、施設賃借費、減価償却費及び修繕費が増加し、また不動産事業で、日本橋ダイヤビルの稼働に伴い減価償却費が増加したほか、設計施工の受注増加等に伴い設計施工費等が増加したため、全体として前年同期比24億7千9百万円（5.7%）増の461億1千5百万円となり、販売費及び一般管理費は、日本橋ダイヤビルの稼働に伴う本社の減価償却費の増加等により、同1億5千2百万円（6.6%）増の24億7千万円となりました。

このため、営業利益は、物流事業で減益、不動産事業で前年同期並みとなったので、全体として前年同期比5億4千2百万円（16.9%）減の26億6千5百万円となり、経常利益は、同5億7千6百万円（13.6%）減の36億5千8百万円となりました。また親会社株主に帰属する四半期純利益は、保有資産の有効活用による投資有価証券売却益の特別利益への計上があったものの、前年同期比1億5千7百万円（5.6%）減の26億3千8百万円となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

倉庫・港湾運送等の物流事業

倉庫・陸上運送の両事業は、医薬品、非鉄金属等の取扱が堅調に推移したため、営業収益は倉庫事業で前年同期比6.8%増の100億2千2百万円、陸上運送事業で同2.8%増の109億3千2百万円となりました。他方港湾運送事業は、コンテナ貨物等の取扱が減少したため、営業収益は前年同期比5.2%減の42億5千1百万円となりましたが、国際運送取扱事業は、為替円安の影響等により、営業収益は同8.7%増の128億5千6百万円となりました。

この結果、物流事業全体の営業収益は、前年同期比16億8千1百万円（4.1%）増の428億1千9百万円となりました。また営業費用は、貨物取扱量の増加に伴い作業運送委託費等が増加したほか、施設賃借費、減価償却費及び修繕費の増加もあり、前年同期比21億6千4百万円（5.5%）増の413億9千3百万円となりました。このためセグメント利益（営業利益）は、前年同期比4億8千3百万円（25.3%）減の14億2千6百万円となりました。

不動産事業

主力の不動産賃貸事業は、前上半期末に移働した日本橋ダイヤビルが寄与したため、営業収益は前年同期比2.8%増の76億8千3百万円となりました。その他の営業収益は、設計施工事業における受注増加等により前年同期比23.3%増の12億5千6百万円となりました。

この結果、不動産事業全体の営業収益は、前年同期比4億4千4百万円（5.2%）増の89億3千9百万円となりました。また営業費用は、日本橋ダイヤビルの稼働に伴い減価償却費が増加したほか、設計施工の受注増加に伴う設計施工費の増加もあり、前年同期比4億4千2百万円（7.4%）増の64億5千3百万円となりました。このためセグメント利益（営業利益）は、前年同期並みの24億8千6百万円となりました。

セグメント別営業収益

セグメント	営業収益(百万円)	前年同期比	
	当第1四半期連結累計期間	金額(百万円)	(%)
倉庫・港湾運送等の物流事業			
（倉庫事業）	10,022	634	6.8
（陸上運送事業）	10,932	294	2.8
（港湾運送事業）	4,251	234	5.2
（国際運送取扱事業）	12,856	1,033	8.7
（その他）	4,757	46	1.0
計	42,819	1,681	4.1
不動産事業			
（不動産賃貸事業）	7,683	207	2.8
（その他）	1,256	237	23.3
計	8,939	444	5.2
セグメント間取引消去	508	36	
合計	51,251	2,088	4.2

(2) 財政状態の分析

総資産

当第1四半期連結会計期間の総資産は、第10回無担保社債償還等に伴い「現金及び預金」等が減少したものの、株式相場上昇に伴い「投資有価証券」が増加したため、前期末比5億4百万円増の4,335億4千6百万円となりました。

負債合計

当第1四半期連結会計期間の負債合計は、株式相場上昇に伴い「繰延税金負債」が増加したものの、第10回無担保社債償還に伴い「1年内償還予定の社債」が減少したため、前期末比46億6千4百万円減の1,652億8千7百万円となりました。

純資産

当第1四半期連結会計期間の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により「利益剰余金」が増加したほか、株式相場上昇に伴い「その他有価証券評価差額金」が増加したため、前期末比51億6千9百万円増の2,682億5千8百万円となりました。

自己資本比率

この結果、当第1四半期連結会計期間の自己資本比率は、前期末を1.1ポイント上回る61.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却による資金留保等により、19億4百万円の増加（前年同期は12億5千2百万円の増加）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出等により、23億8千3百万円の減少（前年同期は70億3千4百万円の減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金が増加したものの、社債の償還による支出等により、41億3千4百万円の減少（前年同期は18億4千7百万円の増加）となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間のキャッシュ・フローは、これらに現金及び現金同等物に係る換算差額（1億2千2百万円の減少）及び連結の範囲の変更に伴う増加額（3億6千万円）を加えた全体で43億7千6百万円の減少となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は389億円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、株式会社の支配に関する基本方針を以下の通り定めております。

会社の支配に関する基本方針

当社グループの主たる事業は、倉庫事業を中核とする物流事業並びにビル賃貸を中心とする不動産事業であります。

物流事業については、倉庫事業を中核として陸上運送・国際運送取扱・港湾運送の各事業を情報通信技術の活用により有機的かつ総合的に運営することを目指し、不動産事業については、所有地の立地に適した活用により、主としてオフィスビル・商業施設の賃貸事業の展開を図っており、これら事業のフェアな遂行を通じて、適正な利潤の確保と安定した成長を図り、株主及び社員に報いるとともに、豊かな社会の実現に貢献していきたいと念願しております。

両事業とも、好立地の土地、建物、設備等を要する性格上、多額の投資を必要としますので、事業の拡大・発展を目指して、資金をはじめとする経営資源の投入は、長期的視野に立ち、継続的、計画的に展開しております。

当社は、当社株式の大量取得を目的とする買付けの意義を一概に否定するものではありませんが、上記に反するような当社の企業価値ひいては株主の共同の利益を損なう買付けは適切でないと考えております。

現在のところ、当社株式を大量に取得しようとする者の存在は認識しておりませんが、当社株式の異動状況を常に注視し、このような考え方に反して当社株式を大量に取得しようとする者が出現した場合には、それが当社の企業価値、株主共同の利益向上に資するものでないときは、適切な対抗措置を検討し、速やかに実施する体制を整えることとしております。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	440,000,000
計	440,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	175,921,478	175,921,478	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 (単元株式数は1,000株)
計	175,921,478	175,921,478		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年6月30日	-	175,921,478	-	22,393	-	19,383

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成27年3月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 628,000		
	(相互保有株式) 普通株式 525,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 173,877,000	173,877	
単元未満株式	普通株式 891,478		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	175,921,478		
総株主の議決権		173,877	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、相互保有株式1,397株(福井倉庫株式会社保有995株、株式会社草津倉庫保有402株)及び当社保有の自己株式906株が含まれている。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 三菱倉庫株式会社	東京都中央区日本橋1 丁目19-1	628,000		628,000	0.36
(相互保有株式) 福井倉庫株式会社	福井県福井市花堂北 1丁目4-22	277,000		277,000	0.16
株式会社草津倉庫	滋賀県草津市大路 1丁目13-25	138,000		138,000	0.08
中谷運輸株式会社	大阪府大阪市港区 海岸通1丁目5-22	50,000		50,000	0.03
湘南企業株式会社	神奈川県横浜市中区 日本大通60	30,000		30,000	0.02
相互運輸株式会社	福岡県福岡市博多区大 博町6-16	30,000		30,000	0.02
計		1,153,000		1,153,000	0.66

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,493	37,078
受取手形及び営業未収金	32,569	32,313
有価証券	6,600	3,600
販売用不動産	6,040	6,920
繰延税金資産	1,906	1,500
その他	4,992	6,058
貸倒引当金	82	78
流動資産合計	90,519	87,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	117,719	116,031
機械装置及び運搬具（純額）	4,441	4,426
土地	73,861	73,871
建設仮勘定	1,333	1,812
その他（純額）	3,248	3,202
有形固定資産合計	200,604	199,344
無形固定資産		
借地権	7,722	7,722
のれん	1,925	1,846
その他	6,953	6,798
無形固定資産合計	16,600	16,367
投資その他の資産		
投資有価証券	116,932	121,984
長期貸付金	510	552
繰延税金資産	2,461	2,452
その他	5,527	5,554
貸倒引当金	22	22
投資損失引当金	92	78
投資その他の資産合計	125,316	130,442
固定資産合計	342,522	346,153
資産合計	433,041	433,546

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	20,326	19,007
短期借入金	18,042	22,165
1年内償還予定の社債	7,000	-
未払法人税等	2,794	695
取締役賞与引当金	35	10
その他	11,113	11,204
流動負債合計	59,312	53,083
固定負債		
社債	27,000	27,000
長期借入金	24,265	24,299
長期預り金	22,972	23,011
繰延税金負債	22,125	23,860
役員退職慰労引当金	172	160
退職給付に係る負債	13,593	13,406
その他	511	466
固定負債合計	110,640	112,204
負債合計	169,952	165,287
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,393	22,393
資本剰余金	19,617	19,618
利益剰余金	164,904	166,539
自己株式	783	788
株主資本合計	206,132	207,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,994	55,611
為替換算調整勘定	2,299	2,106
退職給付に係る調整累計額	128	118
その他の包括利益累計額合計	54,422	57,837
非支配株主持分	2,533	2,657
純資産合計	263,089	268,258
負債純資産合計	433,041	433,546

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
営業収益		
倉庫保管料	5,516	5,840
倉庫荷役料	3,871	4,181
陸上運送料	10,637	10,932
港湾荷役料	4,485	4,250
国際運送取扱料	11,822	12,856
不動産賃貸料	7,964	8,138
その他	4,864	5,051
営業収益合計	49,162	51,251
営業原価		
作業運送委託費	21,122	22,107
人件費	8,517	8,775
施設賃借費	2,037	2,267
減価償却費	3,017	3,265
その他	8,941	9,699
営業原価合計	43,636	46,115
営業総利益	5,526	5,135
販売費及び一般管理費	2,318	2,470
営業利益	3,208	2,665
営業外収益		
受取利息	11	9
受取配当金	947	931
持分法による投資利益	74	80
その他	247	177
営業外収益合計	1,281	1,198
営業外費用		
支払利息	202	183
その他	52	21
営業外費用合計	254	205
経常利益	4,234	3,658
特別利益		
固定資産処分益	10	-
投資有価証券売却益	-	605
投資損失引当金戻入額	14	14
施設解約補償金	-	12
特別利益合計	25	631
特別損失		
固定資産処分損	104	225
損害補償費用	-	115
特別損失合計	104	340
税金等調整前四半期純利益	4,155	3,949
法人税等	1,313	1,282
四半期純利益	2,842	2,666
非支配株主に帰属する四半期純利益	46	28
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,795	2,638

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	2,842	2,666
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,890	3,668
為替換算調整勘定	289	172
退職給付に係る調整額	29	9
持分法適用会社に対する持分相当額	37	3
その他の包括利益合計	3,533	3,490
四半期包括利益	6,375	6,157
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,322	6,052
非支配株主に係る四半期包括利益	52	104

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,155	3,949
減価償却費	3,071	3,360
引当金の増減額(は減少)	14	16
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	384	187
受取利息及び受取配当金	958	940
支払利息	202	183
投資有価証券売却損益(は益)	1	605
売上債権の増減額(は増加)	517	394
販売用不動産の増減額(は増加)	71	880
仕入債務の増減額(は減少)	1,449	1,398
預り金の増減額(は減少)	621	753
その他	872	621
小計	3,782	3,990
利息及び配当金の受取額	1,059	1,146
利息の支払額	291	258
法人税等の支払額	3,297	2,974
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,252	1,904
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	6,409	3,227
固定資産の売却による収入	12	6
投資有価証券の取得による支出	312	20
投資有価証券の売却による収入	1	877
その他	326	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,034	2,383
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の純増減額(は減少)	2,991	4,025
社債の償還による支出	-	7,000
配当金の支払額	1,053	1,053
その他	90	107
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,847	4,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	68	122
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,002	4,736
現金及び現金同等物の期首残高	41,236	43,276
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	-	360
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 37,234	1 38,900

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	
(会計方針の変更)	
<p>「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。) 及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、 当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。</p> <p>企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。</p> <p>なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。</p>	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の借入金等に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
夢洲コンテナターミナル(株)	1,185百万円	1,185百万円
名古屋ユナイテッドコンテナターミナル(株)	679 "	659 "
(株)ワールド流通センター	263 "	235 "
その他	59 "	55 "
計	2,186百万円	2,135百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
現金及び預金	34,799百万円	37,078百万円
預入期間が6か月を超える定期預金	2,165 "	1,778 "
容易に換金可能で価値変動リスクの僅少な有価証券	4,600 "	3,600 "
流動資産その他(預け金)	0 "	0 "
現金及び現金同等物	37,234百万円	38,900百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,051	6	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,051	6	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	倉庫・港湾運送 等の物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する営業収益	41,007	8,155	49,162		49,162
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	131	339	471	471	
計	41,138	8,495	49,634	471	49,162
セグメント利益	1,910	2,484	4,395	1,186	3,208

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,186百万円には、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,197百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	倉庫・港湾運送 等の物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する営業収益	42,671	8,579	51,251		51,251
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	148	360	508	508	
計	42,819	8,939	51,759	508	51,251
セグメント利益	1,426	2,486	3,912	1,247	2,665

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,247百万円には、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,257百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
1株当たり四半期純利益 15.95円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益 15.06円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
(算定上の基礎)	(算定上の基礎)
親会社株主に帰属する四半期純利益 2,795百万円	親会社株主に帰属する四半期純利益 2,638百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 2,795百万円	普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 2,638百万円
普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。	普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。
普通株式の期中平均株式数 175,244,263株	普通株式の期中平均株式数 175,221,644株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月14日

三菱倉庫株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 牧 野 隆 一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長 崎 康 行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋 山 高 広 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱倉庫株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱倉庫株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。